

ASEAN グローバルプログラムで 感じたこと

蔭 山 直 人
Naoto KAGEYAMA
情報メディア学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけて、ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムの首都ハノイとシンガポールにて日系企業訪問、現地企業訪問、ベトナム工業大学とのPBL、NTU（南洋理工大学）の見学・学生との交流、シンガポールでの講演・交流会を経験した。本稿では私がこのプログラムに参加した目的、そこで学んだことや感じたこと、それを踏まえた今後の課題などを記す。

2. 参加目的

近年、ASEANに参加している国々の成長に、先進国の企業が注目し始め、そこに投資するようになっている。私自身、これまでに何度か海外に渡ったことがあったが、あくまでも観光などが目的であり、そこにある企業や大学、ビジネスマンなどに触れる機会やそれらに関することについて一度も考えたことがなかった。今回のプログラムでは、成長過程にあるベトナムとある程度成熟しているシンガポールという正反対の環境にある国を訪問することで、それぞれの国に求められるものや抱えている問題をこのプログラムを通して観察することを目的とした。

3. 研修内容

今回のプログラムでは、現地の博物館などの観光、ハノイ工業大学の学生とのPBL、南洋理工大学の見学と学生との交流、企業訪問、現地で活躍するビジネスパーソンとの交流、講演会に参加した。

3.1 日系企業訪問

日系企業訪問では、2017年8月30日に、ベトナムのハノイ郊外にあるタンロンII工業団地の中にある Takagi Vietnam の工場見学のため訪問した。ここでは主に、散水ノズルや、浄水器のパーツの製造がされている。また、Takagi Vietnam では、独自の取り組みとして専門的な知識が要求される金型事業も日本人エンジニアを送り込むことで可能としている。また、ベトナムでは浄水技術が未熟なことから水道水が飲めないという問題を抱えている。そこで、Takagi Vietnam では、浄水器をベトナムで売り込むために独自の研究をしている。私はこの企業を訪問して、ここに勤めている従業員のほとんどが女性であることに気づいた。また、不良品などが1%を大きく下回ることを聞いた時には驚いた。ここでは、日系企業の活躍のほかに、ベトナム人の国民性も学べた。私は、ただ生産コストを下げるためにほとんどの企業は海外に生産拠点を置いていると今まで考えていたが、この企業を訪問して、その考え方が変わった。私が最も関心を持った点は、Takagi Vietnam にもタカギグループのミッションである従業員の育成をミッションとして立てていることである。タカギグループは昭和36年に創業した歴史の深い企業である。そんな企業を支えるミッションを多くのベトナム人が働く Takagi Vietnam でも立てていることである。私はこの話を聞いたときに、なぜこの企業が長く続けられてきたのかすぐにわかった。また、ベトナムに拠点を置いてそこでの独自の問題について考え研究しているところにも感心した。

3.2 現地企業訪問

Rikkei Soft と NTQ 社は、日本の企業を相手にアプリケーションなどの作成を行っている。Rikkei Soft は、日本に留学経験を持ったベトナム人が設立した会社であり、プログラマーが不足している日本をターゲットにして事業を進めている。そのため、この企業に勤めている人のほとんどが日本語を話せ

ていた。また、この企業は、従業員を日本で活躍させることを目標としているため、日本人の日本語講師を雇い、従業員に日本語の教育を行っている。一方、NTQは、Rikkei Softと同様に、日本企業をターゲットに事業を進めている。こちらは、日本語を話せる従業員が限られているが、こちらの企業では、他の企業との差別化を図るために、人工知能の研究などをして、技術力を高めることにも力を入れている。ほかにも、納期の厳守など、日本企業の方針になるべく沿えるような努力をしていた。

3.3 ベトナム工業大学での PBL

ベトナム工業大学での PBL では、2 日間にわたって、現地の学生 2 名とともに、ユニクロの製品をどのようにして売り込めばよいか考え、アンケートを作成、調査し、結果をまとめて発表を行った。初めは様々な不安があったが、現地の学生から、ベトナムの文化、ベトナム人の性格などを教えてもらい、アドバイスなども積極的に与えてくれた。言語面での不安も少々あったが、伝えたいことを理解しようとしてくれる姿勢があったので、私も積極的にアンケート作成や結果の考察に参加できた。この 2 日間は私にとって初めての体験が数多くあったので、刺激的で充実したものであった。

3.4 NTU (南洋理工大学) の見学・学生との交流

NTU のキャンパス見学や研究室の訪問をした。シンガポールにあるアジアトップの大学である。ここでは、様々な人種の方がこの大学で学習しているところが見られた。研究室の訪問では、リハビリテーション用の補助ロボットの研究室、航空エンジニアリングの研究室、3D プリンタによる自動車の作成の研究室を訪問した。学生との交流では、クラブ活動などの紹介をもらった。様々な取り組みに参加しているところなどから、とても充実した学生

生活を過ごしている印象を受けた。

3.5 シンガポールでの講演・交流会

シンガポールで活躍しているビジネスパーソンの方との交流および「若者よアジアのウミガメとなれ」の著者である加藤順彦さんの講演を聞いた。ビジネスパーソンとの交流では、シンガポールで仕事をしている理由やシンガポールでの生活などについて話を伺った。4 人のビジネスパーソンの方々に話を伺った中で、日本とシンガポールの会社の違いについて教えてもらった。それは、年功序列制ではなく、実力社会であること、また、上下関係に関係なく、自分の意見をはっきり伝えることであった。加藤順彦さんのお話では、日本とシンガポールなどの ASEAN 諸国の違い、また、それぞれどのように変化していくのか? などの話を聞いた。私自身、この話を聞いて、日本を出て仕事をし、加藤さんと同様に外から刺激を与えられる存在になりたいと思った。

4. おわりに

今回のプログラムを通して、私は目的であった、ベトナムとシンガポールという対照的な国々を見て、それぞれの文化、そこでの働き方について学べた。また、日本に限定されていた視野も、世界に向けられるようになった。この 10 日間について私は、ただ受け身の研修ではなく、これからの人生の課題として受け取った。このプログラムのおかげで視野が広くなり、人生の選択肢が増えたように感じた。これから大学で勉強していく中で、どのように人生を設計していくのか、このプログラムの経験をもとに考えていきたい。最後に、このプログラムで濃い経験を与えてくださった、現地で働くビジネスパーソンの方々、現地の学生様、企業様に心より御礼申し上げます。